

1)

実際に様々なスポーツを経験することによって、スポーツにおけるユザビリティーに対しての問題や日常的につかっているもののユザビリティーなどについて考える機会でもありました。

耳が聞こえない、目が見えないなどと身の回りにあり、実際にそれらが自分にも起こりうるかもしれない現実として、どのようにスポーツを楽しむかということについて考え直す機会でもありました。

ローリングバレーなどにおいては、実際には目隠しをし、目の見えない選手が一人いると仮定してプレイをしていました。その中では実際にその選手を主導するのだとうまく説明ができないために、失敗を繰り返していました。逆にその選手に現段階におけるフィールドの状況及びボールがどのサイドにあるかなど状況を判断するための要素を教えることによって、適切な判断が行えることがわかりました。実際に自分が目隠しした時には、ボールの状況を教えてくれるチームメイトがいて、そのチームメイトのおかげによって、ボールが相手から打たれるから受ける姿勢にいないかならないといけいないのか、それとも移動した方がいいのかがわかりました。結果としてボールを打ち返すなど、そのボールを他のチームメイトにパスすることによって、チーム内での連携を成立させることができました。他のローリングバレーにおける他の障害を持った選手を再現した際にも、同じように声の掛け合いが必要でした。実際には片腕のみの選手などを再現してプレイした際には、あるサイドのボールを受け止めることが不利であったために、チームメイトなどに声をかけながら、サポートを受けるといった形でプレイをしました。逆にチーム内で相談して、片腕のみの選手が有利になるポジショニングに配置するなど、制限の中でどのようにチームとして戦うかを決めることができ、コミュニケーションをとることができた。授業以外での場所も考え直すと、授業の際に必要なになっていた「声の掛け合い」というのが重要なライフスキルとして身につくことができたと感じています。

2)今回の授業を受けることによって、次の体育3においては制限の中でチームとしてどのように有利な立場に立つかについて考えることができ、目標設定がすることができた。また、本授業における様々の種目のユニバーサルスポーツを通して、スポーツにおけるユニバーサリティーなどについて考えることができ、スポーツ以外でのユニバーサルデザインについて考えることができました。同じバスケでも車椅子で体験するバスケとみんなの認識のあるバスケが違うなどと同じスポーツでも別世界のようにゲームの感覚が違うことがわかりました。そのために、どれだけ第一人者視点というのが重要かというのを再認識することができ、〇〇だから簡単であるといった表層的な認識で判断する危なさを改めて感じました。実際にはブラインド卓球も遅く球がくれば簡単だと思っていたのですが、遅い球を打つことが目的でなく、相手は点数を取りに行くために早く打つので、鈴の音が消えるなど見た目より難しい部分は多かったです。今後の体育3においては、制限の中でどのようにプレイ、コミュニケーションをとる、作戦を一緒に考えることによってスポーツを楽しむかを考えていきたいと考えています、

3)

チェックイン、チェックアウト制度によって、ゲーム後にも他の場面で声をかけるきっかけとなり、授業以外での話す機会のための話題を作り上げたと思います。また、実際に授業内でのチームスポーツなどを一緒に活動する際に、どのぐらい今日の体調及び調子によって前に出る役なのか、それとも後ろでサポートをする役目なのかを決められることができたと思います。実際にはローリングバレーなどはチェックイン制度によって、誰が障害者選手の再現をするのかを決めて、その人をサポートする係が誰になるかなどを決めることができ、ゲームを進めることができました。また、チェックインでは呼ばれたい名前などを決めることにより、ゲームが始まった際に瞬発的に声の掛け合いが必要になるときに、学年とか考えることなく、あだ名などに呼べる関係にあることによって、声がかけやすくなっていたと感じました。最終的なチェックアウトによって、その日の種目においてはどのような立ち回り方をしたのか、どのような声の掛け合いがなされていたのかについて反省する機会になり、来週への反省点として考える機械になることができました。実際には、ローリングバレーなどにおいては声の掛け合いをなされていたチームが一番うまくいっていたなどを次の週のチームに伝えることによって、声の掛け合いを全体のチームが意識することにつながるができ、最終的にいい結果に繋がることのできたと思いました。